

市長提案説明要旨

令和5年12月6日

本日ここに令和5年第4回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案などのご説明を申し上げます。

《はじめに》

<台風13号による被害状況>

9月の台風13号は、9月8日から9日にかけて、関東甲信地方や東北地方の太平洋側の広い範囲の大雨により多くの被害をもたらしました。

特に、茨城県と千葉県におきましては、局地的に線状降水帯が発生し、猛烈な降雨により各地で甚大な被害を受けました。この災害により亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に対しまして心からお見舞い申し上げます。

本市におきましても、線状降水帯の影響により、1日当たりの降水量が9月の本市での観測史上最高を記録し、幸いにも人的な被害はありませんでしたが、道路の冠水が市内各所で発生したほか、土砂崩れや道路施設等に被害が出るなど、市民生活に大きな影響を及ぼしました。

災害に対しましては、鹿嶋市消防団の皆さまや鹿嶋市建設業協同組合の皆さまの協力を得ながら、迅速かつ適切に対応しておりますが、引き続き、市民の皆さまの生命と財産を守ることを念頭に置き、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

<令和6年度当初予算編成方針>

現在、市におきましては、令和6年度当初予算の編成作業を行っているところであります。

まず、本市の財政状況につきましては、令和4年度決算時において、市の貯金となる財政調整基金残高は前年度比4億円増の22億2千万円となり、市の借金である市債残高は前年度比1億7千万円減の171億7千万円となりました。令和3年度、4年度は、財政調整基金を積み増しすることができておりますが、これはコロナ禍において、各種イベント等が実施できなかつたことや、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用できたためであると分析しております。

令和5年度におきましては、総合計画を推進するための新たな事業や、公共施設の大規模改修等も行っておりませんが、本議会に提案しております令和5年度補正予算を加味した場合、令和5年度末残高は、財政調整基金が約17億1千万円、市

債は約162億9千万円となる見込みであります。

これまで、本市では、歳入額以上の費用を見込んだ予算を編成し、その不足する財源として財政調整基金や市債等を充て、歳入と歳出のバランスをとっていました。しかし、この状態が続きますと、財政調整基金が枯渇することは容易に推測できます。民間企業や一般家庭におきましては、まずは年間並びにその先の収入を見込み、計画的な貯蓄を行い、それに応じた支出の計画を立てます。私は市の財政運営も同様であるべきと考えております。したがって、財政運営を正常な状態に戻すために、職員に対しましても、一人ひとりが「自分事」として捉え、本市の厳しい財政状況を的確に把握し、財政調整基金に頼らず、当該年度の歳入規模に応じた予算編成とするよう指示しているところです。

本市の今後の財政見通しにつきましては、歳入では、令和6年度は固定資産税の減等により市税全体で1億1千万円減の約111億3千万円となります。その後も、市税全体では、各年度2億円から3億円の減となり、令和12年度には100億円を下回る見込みとなっております。

歳出におきましては、超少子高齢社会の進行、子育て支援施策の強化、ICT機器の維持管理・更新、整備後数十年を経過している公共施設等の老朽化対策、物価高騰等による歳出増が見込まれており、市の財政運営は極めて厳しい状況が続く見通しであります。

このような状況を踏まえ、令和6年度当初予算の編成に当たりましては、将来に渡り市民に寄り添ったサービスを持続的に提供していけるようにするためにも、既存事業の無理・無駄・ムラを洗い出すとともに事業の効率化・合理化を徹底しながら、事業を再構築し、財政調整基金を取り崩さないことを目指して予算編成を行ってまいります。

将来に渡って鹿嶋市が鹿嶋市であり続けるためには、財政が危機的な状況になってから財政再建に取り組むのではなく、現段階から財政の健全化に向けた対策を講じていくべきであります。市民の皆さまをはじめ、各種団体の皆さま、市議会の皆さまには、「今まで通り」とはならず、ご不便をかけることが多々あると思いますが、「将来世代に負担を持ち越さない」ということが「現代世代を生きる我々の責任である」と考えておりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、ご説明申し上げます。

(多様性を理解し共に生きる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)

○男女共同参画社会の推進

10月13日に男女共同参画社会推進事業の一環として、女性をはじめとする多様な人材があらゆる社会に参画する機会を提供することを目的に、「地元企業・団体・個人事業主とのマッチング交流会」を茨城県、ハローワーク常陸鹿嶋、市の共催により、市内企業・事業者など19団体の協力を得て開催いたしました。

定員の70人を上回る申し込みがあり、マッチング交流会の前段では、市内のNPO法人ファーストペンギンネットワーク代表の宇野則子さんら3名のパネリストにより、「自分らしく働くために ～企業から見える私の生き方～」と題したトークセッションを行いました。

本事業やアンケートを通して、参加者の起業や社会貢献活動への関心の高さを感じ、誰もが参画できる地域づくりの推進にもつながる貴重な機会となりました。

○公民館まつり等

9月から11月にかけて、各地区において公民館まつりや住民体育祭、芸術祭などが盛大に開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたこともあり、地域での大きなイベントがコロナ禍前のように実施することができております。

各イベントにおきましては、市民の皆さまが協力し合って事業運営に携わっている様子を拝見し、改めて地域コミュニティの大切さを感じたところであります。今後も地域の特色ある事業を地域の皆さまの工夫のもと創り上げ、更なる地域コミュニティの充実につなげていただきたいと思います。とっております。

また、来年2月4日には大野ふれあいセンターにおいて、「社会教育・公民館研究集会」を開催いたします。この集会は、今年度から「まちづくりセンター」を「公民館」に名称を統一したことに伴い、「まちづくり市民大会」から名称を変更したものです。今回は、改めて、公民館の大切さや可能性を考える機会として開催されますので、市民の皆さまが、公民館を拠点として「集い・学び・つながる」地域活動がさらに充実することを期待しております。

○鹿嶋市二十歳のつどい

新年を迎えた1月7日に、カシマススポーツセンターにおいて「鹿嶋市二十歳のつどい」を執り行います。

二十歳を迎える皆さまが踏み出す新たな門出を祝福いたしますとともに、今後築き上げていく未来が素晴らしいものとなることをご祈念申し上げます。

○戦没者追悼式

11月22日に鹿嶋勤労文化会館において、鹿嶋市遺族会をはじめとするご遺族並びにご来賓の方々のご出席を賜り、令和5年度鹿嶋市戦没者追悼式が令和元年度

以来4年ぶりに執り行われました。

戦後78年目を迎え、戦争を経験された方々やご遺族の方々もご高齢となりましたが、式典には、ご遺族の皆さま、関係者約50人が参列され、先の大戦で犠牲となった戦没者に思いを馳せ、追悼の意を表しました。

現在の日本の平和と繁栄は、戦没者の方々の尊い命が犠牲となり、その上に築かれていることを改めて感じるとともに、戦争の惨禍が再び起こることのないよう平和への誓いを新たにしたところでもあります。

(共に学び成長しながら生きる／元気で賢い鹿嶋っ子育成)

○ホームタウン小学校ホームゲーム観戦事業

アントラーズ・ホームタウン協議会では、11月11日にカシマサッカースタジアムで開催されたJ1リーグ第32節、鹿島アントラーズ対柏レイソル戦において、ホームタウン5市の小学5・6年生を対象に、ホームゲーム観戦事業を実施いたしました。

本事業は、地域の子どもたちの鹿島アントラーズへの愛着と郷土愛を育むことを目的に実施したもので、当日は、各小学校に配車された大型バスに乗って、ホームタウン5市から713人の子どもたちが参加し、スタンドから熱い声援を送っていました。

2023明治安田生命J1リーグは、12月3日に全日程を終え、我々が鹿島アントラーズは5位でシーズンを終了しました。来シーズンこそは、2018年以來のタイトル獲得に向け頑張っていたきたいと思います。市民の皆さまにおかれましても是非スタジアムに足を運んでいただき、応援をよろしく願いいたします。

(スポーツに親しみ健康に生きる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)

○鹿嶋市駅伝大会

1月21日に、4年ぶりとなる鹿嶋市駅伝大会がカシマサッカースタジアム周回コースで開催されます。現在、鹿嶋市スポーツ協会が主体となり、鹿嶋陸上クラブや鹿島高校陸上部の皆さまなどの協力を得て、準備を進めております。

大会は、中学生男子・女子の部、一般男子・女子の部、男女を問わないエンジョイの部の5部門で実施されます。

これまでの駅伝大会に比べて、規模は小さくなりますが、今後もあらゆるスポーツ大会の開催などを通じて、交流活動の推進によりコミュニティの醸成を図るとともに、地域経済の活性化につなげてまいります。

○オクトーバーラン&ウォーク2023

本市では、市民の皆さまが気軽にスポーツに親しみ運動習慣を身に付けていただ

くきっかけづくりとして、10月の1カ月間開催されたオクトーバーラン&ウォーク2023のウォークの部の人口カテゴリー別全国市町村対抗戦にエントリーいたしました。市民の皆さま108人にご登録いただき、総歩数3,000万歩を上回る結果となり、過去最高の10位という成績を残すことができました。

今後も、市民の皆さまが運動やスポーツに取り組む機会を充実させ、楽しみながら健康を維持・改善できる環境づくりに努めてまいります。

○感染症対策の徹底と新型コロナウイルスワクチン接種

新型コロナウイルス感染症の発生以降、3年に渡り影を潜めていた季節性インフルエンザが、今年は早い時期から流行の兆しが表れ、11月30日現在、潮来保健所管内における1週間の定点医療機関当たりの患者報告数は22.54人と、長期間に渡り注意報レベルが継続しております。

これまで、市民の皆さまにお願いしてまいりました新型コロナウイルスに対する基本的な感染症対策は、インフルエンザ対策としても有効であります。感染症に「かからない」、「うつさない」ためにも、手洗いや適切なマスクの着用、三密の回避など、引き続き、感染予防策・拡大防止策に努めていただきますようお願いいたします。

また、新型コロナウイルス感染症に関しましても、現在行っている新型コロナウイルスワクチンの特例臨時接種が来年3月末までとなっております。接種をご希望の方は、早めのご予約をお願いいたします。

(環境未来都市・鹿嶋をつくる／行ってみたい、暮らしてみたい鹿嶋)

○資源循環と持続可能な社会形成に関する包括連携協定

現在、本市では、株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー並びに東洋製罐グループホールディングス株式会社と8月に締結した「資源循環と持続可能な社会の形成に関する包括連携協定」に基づき、様々な取り組みが行われております。

まず、9月には資源循環の取り組みの一つとして、すべての市立小・中学校から、約600kgのペットボトルのキャップが集められ、それを用いて、東洋製罐グループの協力により、鹿島アントラーズのロゴマークを印刷したうちわが10,000枚製作されました。そのうち、5,000枚は製作に協力いただいた児童生徒へ贈呈し、5,000枚は10月28日に開催されたJ1リーグの「ホームタウンデイズ鹿嶋の日」において、鹿島中学校のボランティア委員会の生徒を中心に、来場者へ水平リサイクル（資源循環）のPRを兼ねて配布いたしました。

また、市立小・中学校におきましては、資源循環を学ぶ授業も実施されており、鉢形小学校では、4年生を対象として、東洋製罐グループによる「容器のエコを学ぶ」と題した講座が実施され、分別の大切さや資源循環の仕組みについて理解を深める機会を提供しております。

今後も、3者連携による取り組みの更なる充実を図り、地域住民の行動変容に結びつけるとともに、資源が循環する枠組みの構築を進め、より住みやすく持続可能なまちづくりにつなげてまいります。

○鹿嶋市プレミアム付き商品券事業（二次販売）

原材料価格の高騰などにより影響を受けている市民への生活支援と市内の事業者支援、そして、事業者のデジタル化の推進を目的として、プレミアム付き商品券事業を実施しております。

すでに、一次販売が終了し、多くの皆さまにご利用いただいておりますが、デジタル商品券の共通券において若干の残数があるほか、一次販売での未購入分が一定数あったため、デジタル商品券のみ二次募集を行いました。本日、12月6日に抽選結果を発表いたしますので、当選された方におかれましては、期限内の商品券購入をお願いいたします。

なお、商品券の利用期間は来年2月12日までとなっておりますので、忘れることなく、期間内にご利用いただきますようお願いいたします。

○第30回鹿嶋まつり

10月21日・22日の2日間、鹿嶋まつりがカシマサッカースタジアム周辺を会場として4年ぶりに開催されました。

当日は、天候にも恵まれ、恒例の模擬店や物産展、屋外ステージでのキャラクターショーなどを実施したほか、みんなのひろばも同時開催され、延べ62,000人の人出で賑わいました。

（スマート&コンパクトな鹿嶋をつくる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋）

○地域防犯活動の促進

本市の刑法犯認知件数は、令和4年の年間394件に対し、本年は10月末時点において381件と増加している状況であります。犯罪のない安全安心のまちづくりを推進するためには、市民一人ひとりが地域を見守るという防犯意識を持ち、地域ぐるみの防犯活動の強化が必要であります。

現在、本市には自警団が19団体組織され、約1,200人の団員による地域防犯パトロールを中心に様々な防犯活動が行われております。

今月16日には、鹿嶋勤労文化会館において、鹿嶋市自警団連絡協議会により「第18回安全・安心まちづくり鹿嶋市民大会」が開催されます。当日は、市民の皆さまの防犯意識を高めていただくために、鹿嶋市自警団連絡協議会や警察関係者などによる防犯啓発パレードを実施する予定となっております。

市といたしましては、鹿嶋警察署をはじめとする関係機関などと連携を図り、市

民の皆さまの防犯活動を支援し、安全で安心して生活できる地域社会の実現につなげてまいります。

○ChatGPTの実証実験

本年5月から11月末まで、本市のデジタル化推進による業務改革の一環として、新時代の行政サービスへの第一歩となる、対話型AIであるChatGPTの実証実験を行ってまいりました。

この実証実験におきましては、庁内にワーキングチームを立ち上げ、様々な部署でChatGPTを活用し、進化する対話型AI技術動向への対応や、適切な運用のためのセキュリティ教育などを共有しながら、その効果や可能性を検証してまいりました。その結果、市の業務におきましても、この技術が広く活用でき、検証期間内に178件の使用例で、合計約141時間の作業時間の短縮を確認することができました。

対話型AI技術は、インターネットの普及を上回る速度で発展していくものと確信しております。今後、庁内での適切な運用を継続しながら、効果的な業務改善ツールとして活用し、よりスマートで効率的な行政運営につなげ、市民サービスの更なる向上に努めてまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が7件、条例関係議案が12件、人事関係議案が1件、指定管理関係議案が4件、市道関係議案が1件、報告関係議案が1件の、合わせて26件であります。

予算関係議案は、令和5年度一般会計及び特別会計などの補正予算であります。

一般会計補正予算については、既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ6億8,075万9千円を追加し、総額251億2,556万2千円とするものです。

歳入の主なものとしたしましては、社会福祉費負担金などによる国庫支出金、県支出金の増、財政調整基金繰入金などによる繰入金の増、前年度繰越金の増などを見込みました。

歳出の主なものとしたしましては、扶助費などによる自立支援給付事業、医療福祉経費及び教育・保育施設入所支援事業の増、返還金などによる生活保護運営対策事業費の増などを計上しました。

国民健康保険特別会計補正予算については、諸支出金などの補正であります。

後期高齢者医療特別会計補正予算については、後期高齢者医療広域連合納付金の補正であります。

介護保険特別会計補正予算については、保険給付費などの補正であります。

農業集落排水事業会計、水道事業会計及び下水道事業会計については、職員給与費などによる補正であります。

条例関係議案は、新たに制定するものが1件、改正するものが10件、廃止するものが1件であります。

新たに制定する条例は、「鹿嶋市看護師修学資金貸与条例」についてであります。

一部を改正する条例は、「鹿嶋市産業活動の活性化のための固定資産税の特例措置に関する条例の一部を改正する条例」などについてであります。

廃止する条例は、「鹿嶋市モーテル類似旅館規制条例を廃止する条例」についてであります。

人事関係議案は、「鹿嶋市監査委員の選任について」であります。

指定管理関係議案は、「鹿嶋市障がい者通所施設松の木学園の指定管理者の指定について」などであります。

市道関係議案は、「市道路線の廃止及び変更について」であります。

報告議案は、令和5年度鹿嶋市一般会計補正予算（第6号）の専決処分についてであります。台風13号の影響による大雨に伴う災害対策経費5,388万円を追加いたしました。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、総務部長から補足説明をいたします。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。